

## 会 議 記 録

会 議 名	「(仮称) 第3次宇都宮市観光振興プラン (以下「第3次プラン」という。)」第2回策定懇談会
会議主催課名	宇都宮市経済部観光交流課
日時・場所	令和4年12月22日(木) 午前10時00分～午前11時40分 宇都宮市教育センター 研修室503・504
出席者	<p><b>【委員】</b>※委員名簿順, 敬称略</p> <p>宇都宮共和大学 特任教授 古池弘隆</p> <p>(株)JTB宇都宮支店 観光開発プロデューサー 高橋政稔</p> <p>東日本旅客鉄道(株) 大宮支社 地域共創部 地域連携ユニット マネージャー 佐々木真弓</p> <p>宇都宮ライトレール(株) 経営企画部 部長 大根田友範</p> <p>宇都宮タクシー事業者協議会 会長 濱田隆也</p> <p>(株)ファーマーズ・フォレスト 第一エリア営業グループ 総支配人 田代賢一</p> <p>協同組合宇都宮餃子会 専務理事兼事務局長 鈴木章弘</p> <p>(特非) 大谷商工観光協力会 理事長 大久保裕之</p> <p>(一社) 宇都宮観光コンベンション協会 常務理事 鈴木孝美</p> <p>宇都宮商工会議所 常務理事 小関裕之</p> <p>(一社) うつのみやシティガイド協会 代表理事 藤本由利子</p> <p>(株)新朝プレス monmiya 編集長 花塚理恵</p> <p>公募委員 森拓海</p> <p>&lt;欠席&gt;</p> <p>(株)あしぎん総合研究所 地域開発事業部 部長 佐藤和寿</p> <p>東武鉄道(株) 東武宇都宮駅 駅長 熊倉与一</p> <p>関東自動車(株) 路線バス部 部長 福島 崇文</p> <p>宇都宮ホテル旅館協同組合 常任理事 福田治久</p> <p>宇都宮農業協同組合 営農部 営農企画課長 佐藤 文雄</p> <p>サイクルスポーツマネジメント(株) 代表取締役社長 柿沼章</p> <p>公募委員 石和スワンニー</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>経済部副参事(都市魅力・MICE担当), 観光交流課長, 観光交流課職員3名</p>
公開・非公開の別	公開

傍 聴 者	0名
配 布 資 料	次第 資料 「(仮称) 第3次宇都宮市観光振興プラン」 の素案について 別紙 「(仮称) 第3次宇都宮市観光振興プラン」(案)【概要版】
次 第	1 開 会 2 議 事 事務局より資料・別紙に基づき説明を行った。 3 その他 4 閉 会
会議で議論と なった事項	<p><b>【2 議事】</b></p> <p>「(仮称) 第3次宇都宮市観光振興プラン」の素案について  &lt;資料 「(仮称) 第3次宇都宮市観光振興プラン」  の素案について&gt;</p> <p>(宇都宮共和大学 古池会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本編資料の「1(2)策定計画の位置づけ」の計画のフローのところ、関係計画と整合を取るとのことだが、下の方で、「宇都宮市MICE戦略」や「宇都宮市経済・地域の活性化に向けたスポーツ都市戦略」、「大谷地域振興方針」3つと観光振興プランとの関係性はどうなっているか。</li> </ul> <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 位置付けは、「第6次宇都宮市総合計画」が最上位にあり、その下に、現在、改定を進めている「うつのみや産業振興ビジョン」があるので、その情報を反映しながら、観光振興プランの改定も進めている。</li> <li>・ 「宇都宮市MICE戦略」は時系列的に既に策定が済んでいるが、最上位である総合計画や産業振興ビジョン、観光振興プランの状況を見ながら、MICE誘致に取り組んでいくこととなることから、観光振興プランの施策のところにも「宇都宮市MICE戦略」に基づいたMICE誘致強化に取り組むこととしている。</li> <li>・ また、策定以降、社会状況も変化していくことから、それぞ</li> </ul>

れの計画の改定状況や社会状況の変化を捉えながら、適宜、取り組んでいくというところで、連携を図っていくこととしている。

**(協同組合宇都宮餃子会 鈴木委員)**

- ・ 横串，部をまたぐというところはもちろん，それ以前に部内の共有，もう少し顔が見える取組があつて然りかなと思う。例えばMICEでいうと，都市魅力創造課との連携性がどういうところで図られるのか，大谷で言えば大谷振興室との関わりや情報の共有，さらには農産物。ここが，私は課題だと思っている。農業企画課との連携，観光交流課の中だけでなく，ここを起点としてそれぞれのコンテンツを結びつける，いわゆる経済部としての経済振興の顔が見えてこない，部をまたぐ横串はほど遠いと思う。
- ・ 本市の誇れる特色のところ。厳しい言い方をすると，放置しては，ブランドは磨かれない。餃子に関してもずっともがき続けている。例えばジャズやカクテルも絵に描いた餅になっていないか。ここを磨き上げるためには，自走させるためのきっかけを改めて作っていく必要がある。
- ・ 市民にもブランド化につなげていくために，餃子，ジャズ，カクテルと長年言っているから加える，ということではなく，磨き上げとか本気で捉えていかないと。餃子も放っておいては消えていく。放っておかない活動をしていかないといけない。
- ・ さらに，北西部。宇都宮市は，ろまんちっく村を起点に北西部と捉えていると思うが，今一度，北西部のブロックを分けて考えて欲しい。大谷という言葉がとても大切であり，大谷というワンブロックと，もうひとつ，ろまんちっく村をどう活用するかもとても大切ではある。近くだと，多気の方のしいたけ農家が，新里地区にワイナリーを作った。このワイナリーが，来年8月，宇都宮で作ったぶどうで収穫し，宇都宮で醸造するという，ワインが作られる。ここは，日光街道から分岐して入れるところにあるので，日光に来た人，インバウンドにも確実につながると思う。日光に来た人をどうやって宇都宮市に引っ張

り込んで、新里地域に呼び込み、さらには、ろまんちっく村に着地してもらうか。大谷とは別の動線になる。

- ・ 大谷地区と、私は新里地区という言い方にしているが、新里地区の観光開発も含めて2本柱で北西部と捉えられないのかなと思っている。
- ・ これは大きなきっかけになる。若い農業従事者がこういう取組をしている。ワイナリーの正面には、ゆず園もある。ゆず園で見学し、収穫をしてもらい、ワイナリーを見学してもらって、宇都宮産のワインを買ってもらう、これこそ観光であり、ブランド振興につながるものと考えている。

#### **(宇都宮共和大学 古池会長)**

- ・ ジャズやカクテルが絵に描いた餅にならないように。餃子は餃子会が一生懸命頑張っていて、これだけの知名度になっている。
- ・ 行政の役割と民間の役割、餃子は餃子会、この活躍は民間がやっているもの。その民間と行政の連携の仕方が大きいと思っている。今後も議論していきたい。
- ・ どうやって民間を巻き込んでいくか。カクテルの話で希望を持っている。
- ・ ジャズも、ナベサダさん以降色々やっているが、神戸や横浜など他に比べるともう1個飛躍できると良いかなと、そのためにはどうしたら良いかということが課題だと思う。
- ・ もうひとつ、北西部の細分化について。こうやって新しい農家や具体的な話も含めて必要であるなら、ただ北西部というだけでなく、考えて欲しい。

#### **(宇都宮タクシー事業者協議会 濱田委員)**

- ・ 北西部の話でいうと、宇都宮市観光交流課と協力させてもらって北西部の周遊タクシーを先月の土日に合計して8回やらせてもらった。結果は、そこそこのお客様が乗られたということで、満遍なく、例えば、ろまんちっく村とか若山農場、カネホン採石場、大谷資料館の間の2次交通としての結びつきの必

要性を確認できた。車の方は別にして、JRとか東武鉄道で来られる方は次の足がない。利用客の伸び悩みがあったのは、その周知期間と宣伝の方法である。

- このご時世で、紙媒体で、駅に着いて、パンフレット取って、そこで初めて知ったというのでは遅い。それでもやっぱり、るぶとか雑誌は見るから、そういうところに、定期的にこの地区に行くには、足を確保しなくてはならない、こういう周遊タクシーが走っていることが周知されれば、来やすくなるのでは。その辺りをフェイスブックとかSNSでも良いが、事前に浸透させておかないと、せっかくハードがそろっていても、そこに行きにくいという状況が出てしまう。
- この施策はすごく良かったと思うが、周知の期間をもう少し設けてもらったり、有効的な宣伝媒体を活用してもらえば、もっとつながるのではと思う。
- あとは、農業とかは、YouTubeとかでも爆発的に見られている。思い付きだが、小区画に自分で作物を作って収穫するとか、体験にもつながるので、そういう設備があれば、より一層、観光客のニーズを捉えられるのではないかと思う。

**(宇都宮共和大学 古池会長)**

- 2次交通の話。アクセス。駅からその先どうするのか。この周知方法も十分でない。交通手段の周知についても、きちんと考えないとならない。
- もうひとつPRの話で、どういう方法で周知していくかということだが、ブランド戦略の中で、JR東日本企画にお願いして、1月から大々的にテレビCMだったり駅のサイネージや山の手線などの電車内の広告をやるという計画があり、首都圏の20代カップルやヤングファミリーに対し、移住定住の側面からもやろうとしている。こういうところでの連携が必要である。
- 濱田委員からもあったように、新しいもの、魅力をどうやって発信していくかも課題である。

**(事務局)**

- ・ 2次交通については、これまでもバスやタクシーなど、ニーズを捉えながら、手法を変えて実証をやらせてもらっている。
- ・ 行政の方でもモビリティの社会実験を交通政策でやっているところであり、それも捉えながら、ふさわしい2次交通のあり方を検証していく。
- ・ PRの話では、首都圏をターゲットに捉えている。引き続き、効果的な若者やZ世代向けの取組を新たに展開していきたい。

**(宇都宮共和大学 古池会長)**

- ・ 2次交通のところで言うと、宇都宮ライトレール(株)の大根田委員のところで、来年8月にLRTが開業した時に、まさに電停から先にどうやっていくかということが課題になると思う。ラストワンマイルの話ではないが。

**(宇都宮ライトレール株式会社 大根田委員)**

- ・ 2次交通だが、私どもは生活の足としての地域で暮らす方々の乗り継ぎのしやすさというところがひとつあると思うし、もうひとつは、初めて宇都宮にいらした方、観光とかビジネスの目的で初めて来訪された方々にとって移動が分かりやすいという2つの側面があるものと思う。それを、MaaS的なサービスで補うというところもある。
- ・ あとは、そもそもだが、私どもの事業は、バスとか地域内交通等とのつながりをトランジットセンターをはじめとしてハード的に整備するという取組もある。
- ・ まずは駅東側での開業であり、駅西側まで考えるとまだ取組半ばではあるが、そういった配慮もしながら進めていく。

**(宇都宮共和大学 古池会長)**

- ・ 2次交通の話だと、12月1日から、宇都宮市は、シェアサイクルの実証実験が始まった。1月10日からだと思うが、電動キックボードも併せてやるという、これを実証実験として両方やるのは、日本で最初。ぜひうまくいくことを願っていて、

そういうものを踏まえて、循環バスであったり地域内交通であったり、それに加えて、短距離だったら、シェアサイクルとかキックボードとか新しいモビリティも使えるのかなと思う。

**(株式会社ファーマーズ・フォレスト 田代委員)**

- ・ 現状だが、新里という地名が出たところで、新里には、新里ねぎという、宇都宮で唯一、地域の名前がついた野菜がある。みんな「にっさと」と呼べなくて、「しんざと」とか「しんさと」とかそういう部分もあるので、新里地区が前に出ると、地域の人も喜ぶと思うし、新里ねぎというせっかくの唯一のねぎも、農業の産物が目立つのでありがたい。
- ・ あとは、全国旅割のチケットが出てから、だいぶ日光とかからのお客さんの入りが多くて、旅割のチケットがろまんちっく村で使えるのかという問い合わせが多い。観光で来たお客さんが、必ず宇都宮に寄る、行きではなく、やはり帰りなのかなというニュアンスが強いが、日光街道や日光有料道路から帰ってきて、逆を言うと、ろまんちっく村側から宇都宮への玄関口になるので、うまく北西部、大谷とかに引き込めるように、あっち側に対してのPRを行うと、効果的にまちなかに最後に寄って帰るという逆ルートができるのかなと思う。

**(宇都宮共和大学 古池会長)**

- ・ どうも我々は、宇都宮駅などの中から北西部に行くことを考えがちであるが、逆方向で、日光の帰りとか日光からこちらに向かうとか、そういうお客さんをつかむということも重要であると思う。

**(東日本旅客鉄道株式会社 佐々木委員)**

- ・ 宇都宮だけではなく、色々なところから流入してくる中で、宇都宮に立ち寄ってもらい、滞在してもらおうということは、会社としても重要なことだと思っている。まさに栃木県にとってのハブなのだろうと思う。
- ・ そういった意味では、当社の媒体を活用して首都圏で情報発

信をさせてもらったりとか、あとは、他のエリアでは、「M a S」を自治体と一緒にやらせてもらったりしているので、そういったところで、当社もできるところでしっかり協力させてもらえればと思う。

- ・ 宇都宮がハブというところでいうと、栃木県の他のエリアの市町の観光戦略を何個か覗いてみたが、どこの市町も共通して「他市町との連携」を課題として挙げていて、たぶん、そういうことを思っているところは多いと思う。宇都宮に入ってきてもらうためには、ルートを他の自治体とも一緒に考える機会を持てれば良いのではないかと思う。

#### **(宇都宮共和大学 古池会長)**

- ・ 県内、他自治体との連携というところでは、4ページの「基本戦略IV」でうたわれているが、県内・県外自治体との連携は、他の自治体も言う。ただ、掛け声だけで、実際は実施に移せていないところが非常に悩ましい。これは、行政の宿命で、周りの自治体は皆、ある意味では競争相手である。ところが、来る人の立場に立てば、宇都宮であろうと、日光であろうと、益子であろうと、来る目的としては、効率良く、宇都宮に来て帰るのではなく、日光経由で宇都宮に行つてなど、自治体をうまくつないでいくというのが非常に大きな課題である。ぜひ、そういうことでも、ここに戦略として入れてあるので、推進してもらいたい。

#### **(株式会社JTB 高橋委員)**

- ・ 別紙3ページの観光都市像について。インバウンドやMICEという言葉が使われている中で、観光都市像の文言を読んだ時に将来のイメージが湧かなかつた。MICEという素晴らしいリソースができることを考えると、「国際」とか「サステナブル」とか、5年後10年後20年後、宇都宮の観光が、もしくは市民がどういう生活をしているかイメージできると良いなと思う。私がパッと考えたのは「国際」という言葉を使うと、何となく、「様々な人々が行き交い」というところに全部包含



されていると思うが、ある程度具体的に、「色々な国の方々が、MICEを目的に来ているのだな」、「色々な国の方々が来ているのだな」、「そんなまちになるのだな宇都宮は」とイメージでき、すごく分かりやすいかなと思う。

**(宇都宮共和大学 古池会長)**

- ・ 「様々な人」の中に実は「世界中」が包含はされているが、もう少し具体的にということでご検討をお願いしたい。
- ・ 「持続的な」とか、ちょっと、SDGsが流行りすぎているところはあるが、もう少し「将来にわたって」というところもあると良いかもしれない。

**(宇都宮観光コンベンション協会 鈴木副会長)**

- ・ 2ページの「第4章 課題」のところで現状と社会環境、課題が載っているが、社会環境の「SDGs」とか「デジタルテクノロジー」は全ての6つの課題とか戦略の考え方を貫く潮流だと思う。ただ、文言を読んでいくと、「デジタル」はいくつか散らばっていて読み取れるが、「サステナブル」とか「SDGs」がなかなか読み取れない。そういったものを意識したプランとなるよう表現を工夫した方が良いのかなと思う。
- ・ 併せて、3ページの「基本戦略の考え方」の部分も「オール宇都宮」と「デジタル」のほか、やはり、ここでも、「SDGs」とか世界的な潮流、これをしっかりと戦略として、考え方として持っている表現の方が良い。例えば「人」×「デジタル」×例えば「SDGs」と三位一体的な感じで見せていくみたいなことも必要かと思う。「SDGs」に取り組んでいない都市は選ばれないということもあるので、しっかりとその辺で取り組んでいくと打ち出す意味でも。

**(宇都宮共和大学 古池会長)**

- ・ 宇都宮市は「SDGs未来都市」に認定されている。もちろん「スーパースマートシティ」というのもあるが、「SDGs」という言葉を入れると良いと思う。

**(宇都宮商工会議所 小関委員)**

- ・ 商工会議所の中で、いくつか委員会があり、その中で、今年の秋まで約3年間の活動の中で「地域活性化委員会」があり、そのテーマが大谷とかの北西部の活性化がテーマだった。
- ・ その意見として、ご報告をさせてもらいたい。多くは、ハード面の話とか、環境整備、お土産、飲食店、宿泊施設、こういうのは、今度のプランにも概ね取り込まれているかなと思ってこの通りで良いなと思う。
- ・ ちょっとおもしろいなと思ったのが、北西部地区の名称の件で意見があった。「北西部地区というと観光としてよく分からない」ということがあって、だからといって名称をどう変えるのかというのが次のステップだと思うが、先ほど言ったような、「新里」とか固有の名詞を使うのもおもしろいかなと思う。気になった意見だったのでご紹介させてもらった。
- ・ あともうひとつは、ターゲットがあるが、もっぱら市外から来る人、国外から来る人も含めてであるが、私どもの委員会の意見の中では、宇都宮市民でさえ、子供のころに大谷は行ったけれど、最近の大谷は分かっていなくて、驚いたとか素晴らしくなくなったという肯定的な意見が多かったところであるが、やはり、「市民がもう少し知らないといけない」という意見が多かった。そういう中で「大谷の検定やったらどうか」とか「大人も含め子どもに教育できるようなものを行った方が良い」というような意見もあった。ただ、プランのターゲットとは少しずれるので、別の観点、ステップかなということで、今後の参考という報告をさせてもらった。

**(宇都宮共和大学 古池会長)**

- ・ 北西部の名称、あるいは地域の検討はぜひ。
- ・ 市民に対する観光への意識の醸成は、大切だとは思う。どうしても観光というと外ばかり見てしまいがちではあるが、実はブランド戦略を立ち上げた時に、目指すところは、外だといわゆる「シティセールス」とか「観光セールス」になるが、中だと「まちづくり」ということで、それを融合する形で、宇都

宮の都市ブランドを考えましょうということが、スタートだった。

- ・ 今、小関委員が言ったように、観光というと外向けばかりだが、実は市民に対しての観光というのも大いにあるのではないかと思う。
- ・ やはり、私どもはL R T関係で西側と東側をつなぐというところで、西側の方は東側のほうにあまり目を向けてこなかった。ぜひ、市民に対する観光というのも何らかの形で考えて欲しい。

**(一般社団法人うつのみやシティガイド協会 藤本委員)**

- ・ 今、話のあった「市民でも宇都宮の良さを知らない」で。特に大谷。子どもたちが、「宇都宮学」を教材としているが、渡されるだけでは意味がないということで、城山地区の子どもたちなど、地域のことを知らない人が多いので、私どもは、小学校へ行って、宇都宮学の勉強、大谷の良さ、あの地域のすばらしさを紹介するという活動を広くさせてもらっている。
- ・ 一番思うのが、宇都宮の方は、当たり前になっていて、宇都宮自体を知らない。普通に生活しているからというところが非常に強いように思う。まずは自分達が、宇都宮を知って、宇都宮の魅力を、ここに住んでいる市民が感じないと絶対に観光にはつながらないと思う。
- ・ 岩本観音が大谷の日本遺産のひとつに加わったところだが、岩本観音は今までほとんど皆さん、地元の方も行くことはなかったが、今、開発が進み、きれいになっていて素晴らしいところになっている。
- ・ この間、その地域、新里のあたりからろまんちっく村の北のあたりを歩いたが、日光に劣らないくらいの素晴らしいものがたくさんあるが、同じ自治会の人も見ることがない、自治会の会長さんが、「ゆっくり見たのが初めてでした。」というような、宝の持ち腐れのようなところがいっぱいある。
- ・ 「北西部を歩いて、ご案内します」というものを広報で募集したが、抽選しないとまらないくらい皆さん集まってくれる。

やはり宇都宮は、まだまだ知らない良い所があるから、まずは歩いてもらい、いかに広報活動するか、市民一人ひとりが媒体となってもらわないと伸びないと思う。

- ・ そしてもうひとつ。宇都宮は、地域的に広いので拠点をたくさん設けて欲しい。ろまんちっく村から何か周遊観光するようなバスとかツアーを月に1回、2回設けてもらって、そして今度、大谷では、来年11月に「大谷観光周遊拠点施設」ができるので、そこを拠点にするとか、色々なところに拠点を作って、そこから観光の発信場所としてもらいたい。
- ・ 一昨年に、那須のホテルから2泊3日でツアーをするので、大谷の案内をシティガイド協会にお願いしたい話があった。そういった形で市をまたいで、色々なホテルと手を組んで、東京から那須に来て、宇都宮に来てもらってまた那須に戻すというような、色々な形でパイプ役にならないといけないのかなとつくづく感じている。やはり、私たちだけでは限られているので、市民をいかに巻き込むかを考えてもらえると嬉しい。

#### (宇都宮共和大学 古池会長)

- ・ 駅周辺やまちなかだけでなく、宇都宮に色々な拠点を作るということが「ネットワーク型コンパクトシティ」であり、それぞれの拠点に人を集めて、それを例えばLRTなりバスなり、地域内交通で結ぼうというのが、宇都宮の戦略である。
- ・ これは、第5次の総合計画で決められて、LRTのもとになっている。
- ・ そういう意味で、拠点をもっと元気にしていくということが、宇都宮が目指している正しい方向だと思う。
- ・ もうひとつあった、市民がいかに宇都宮市内を知らないか。これもぜひ、子ども達の遠足も外に行くばかりではなく、市内あちこちで、これだけ広い土地なので、そういったこともぜひ続けてもらいたい。
- ・ やはり大切なことは、市民が自分のまちを正しく理解して自慢できるものがあれば、これはシビックプライドというか市民の持つプライドにつながっていくと思う。そうすると、よそか

ら見ると、それが憧れになる。やはり宇都宮市民が素晴らしいまちだと思えるような、そういうことが必要である。その辺りブランドでずっとやってきたが、もちろん観光も外に向けてばかりではなく、市民に向けた市内観光の推進も必要であると感じる。

**(株式会社新朝プレス 花塚委員)**

- ・ 意見としては、第4章の課題で挙げられていた「SDGs」と「持続可能な観光」というところは具体的に見えてこなかったなと感じる。「SDGs」と一言で言っても、色々な分野のSDGsがあると認識していて、先ほどの大谷の話ではないが、伝統を受け継ぐということもSDGsの一つだと思うし、そういったことで色々あるので、こういった方向性のSDGsなのか見えなかった。
- ・ あとは、拠点を色々なところに持ってとあったが、まずは、宇都宮の観光が、「点」でしかないなと感じていて、それを「線」とか「面」でつなげていくことが非常に大切であると感じている。例えば、駅東で夕方の、暖かい時期にイベントがあって、その日は泊まって、次の日に大谷なり中心市街地でまた何かイベントがあるみたいな形で、戦略的につないで楽しんでもらえるような日を設けるといったものとか、そういったことが大切かなと感じる。
- ・ 私は、日頃情報誌を作っている立場であり、ひとつめの目的は決まっているが、その次に行くところを知りたいという要望が多いので、そういったところが重要なのではないかなと思う。

**(宇都宮共和大学 古池会長)**

- ・ 「SDGs」は17項目あって、範囲が広い、その中の何をというのもうまく使えるものがあれば。
- ・ 市内でも、せっかく一泊してもらって、市外含めてでも良いが、そういう連続した、点ではなく線のルートとかを検討、作戦も必要かな、という意見だと思う。

**(特定非営利活動法人大谷商工観光協力会 大久保委員)**

- ・ やっと少しずつ大谷が盛り上がりつつあり、市や県の協力ももらって、道路や河川の整備も進んでいるところである。
- ・ コロナ前であれば、ある程度、JTBやJRのお世話になりながら、観光での団体客がかなり来ていたが、コロナ以降は、ものすごく個人客が多いと感じている。
- ・ 団体客でも人数もバスも減っていて、ターゲットをどういう風に絞って、どうしていくか、ウィズコロナでどういう戦略にしていくかをはっきりとさせた方が良くかなと感じている。
- ・ 観光拠点も来年できるので、私たち、協力会も、そこを拠点として大谷のことをどんどん発信していきたい。
- ・ ちょっとしたイベントを、失敗してもやろうよと、今年の冬にやらせてもらって、とにかく時間ない中でもSNSを活用してどれだけ発信できるかをやってみたが、やはり、今は若い世代がSNSで色々な情報収集をしているので、その活用というのはとても大切かなと、短い期間でも何百人と来てくれたので、その情報で来ましたという人がすごく多いので、やはりこれは、オール宇都宮でいくのであれば、市・県ひっくるめて、私たちも含めて、もう少しSNSを活用してどれだけPRできるかが、すごく大きなことだと思う。

**(宇都宮共和大学 古池会長)**

- ・ 大谷のスマートインターチェンジが、オープンすると、車で来るアクセスが非常に上がり、便利になる。
- ・ 宿泊施設はどうなったか。

**(特定非営利活動法人大谷商工観光協力会 大久保委員)**

- ・ 計画はあるが、どうしても大谷となると、大谷石の岸壁があって、建物を建てられないとか、色々な法律上の問題もあって、これは市と県とも話をしながら、少し緩くしてもらって、何かできないかと。新築ができないところが多々ある。

**(宇都宮共和大学 古池会長)**

- ・ そのあたりは法律がダメでできないとかではなくて、それこそ議会があつて市役所があるわけだから、法律を変えるくらいの働きかけをやってもらいたい。
- ・ 大久保委員の話にもあつた若い人のSNSについては、前回、Z世代などの若者の情報発信とか。さっきも話があつたが、活字媒体とか既存のテレビとかそういうものは、今の若い人はあまり見ないので、そのような中で、観光戦略、観光振興をどうしたら良いか。森委員、何かあるか。

**(公募委員 森委員)**

- ・ 自分のまわりでもSNSで旅行先を決めている人が多い。そういうことに力を入れた方が良いと思う。

**(宇都宮共和大学 古池会長)**

- ・ そういう意味では、宇都宮にもいると思うが、インフルエンサーでYouTubeに投稿したり、そういう情報発信が良いと思う。特にインバウンド、まだ完全には戻ってこないけれど、少なくともコロナ禍でも人が増えているようなので、インバウンドの人たちに効果があるのはSNSによる情報伝達であると思う。

**(協同組合宇都宮餃子会 鈴木委員)**

- ・ 大久保委員が言われたように、SNSの発信は非常に重要である。モビリティに関してもクリスマスマーケットやられていて、延長したという情報もなかなか届かなかつたと。グリーンスローモビリティの期間を延長した情報もシティガイド協会さんにも伝わっていなかった。アナログでもうまくいかないことが、デジタルを通じてもっともっと多くの人に知らせないと、濱野委員からも言われたように、周知するということがつながらない。せっかく素晴らしい取組をしているのに、伝わらない。観光プロモーションの中に、もう少し、プロモーションというところを更に強化したところを掲げて欲しい。
- ・ 特に、様々なキャンペーンを受託事業の中でやられているが、その都度、キャンペーンアカウントを立ち上げている。アカウ

ントに登録してもらうことは、我々にとって財産である。お客様達が「あなたの情報を知りたいですよ」ということで登録してくれている。ところが、キャンペーン毎にアカウントを立ち上げていては、キャンペーンだけのために登録してもらってまた終わっちゃう。このような無駄なことはない。だから、多くの人々に、宇都宮の観光に興味を持ってもらって登録してもらったアカウントをずっと抱え込んで常に発信していく、これをしていかない限り、その都度その都度になってしまうと思う。

- 例えば、monmiya さんであれば、monmiya のファンを作っているから、monmiya の中で情報配信を色々やっている。宇都宮も宇都宮観光のファンを作っていくということを面で捉えていく必要がある。
- お願いしたいことは、キャンペーンアカウントは、宇都宮観光のアカウントとしてひとつ持ってもらって、受託事業者にログイン情報を渡して、活用させていく。ということで、ずっとフォローしてもらっているアカウントを抱え込んでもらいたい。でないと、その都度になって、発信力につながっていかない。

**(宇都宮共和大学 古池会長)**

- SNSの継続性、まさに観光DXだと思うので、うまいデジタル情報の再活用をお願いしたい。

**(宇都宮観光コンベンション協会 鈴木副会長)**

- 施策のところ。ひとつは、大谷の部分で、「見る」、「食べる」、「遊ぶ」、「泊る」機能とあるが、大谷という、あれだけの可能性を秘めている地域はないと思う。やはりアートとか芸術とか、ミュージアム構想とか集積すると強いコンテンツになると思う。
- 2次交通の話が先ほどでたところであるが、色々ある中で、まちなかは省スペースで、レンタサイクルとか電動キックボードが良いと思うし、郊外にいくと、機動性が高いものということになるだろうし、エリアの特性を踏まえた2次交通、タクシ



一とバスと共存できることが重要である。

- ・あとは、成果指標のところ。前回も話をさせてもらって、どんどん精度を上げてもらえればとは思う。観光消費額も有力な指標なのだと思うが、910億円でどう変わるかを肌で感じられない。そういう指標になかなかない。生活でどう役立っているか分かる指標はないのかなと思う。例えば、国際標準的な、旅行・観光サテライト勘定のような経済効果を可視化されるようなものがあるそうなので、参考にして欲しい。

**(宇都宮共和大学 古池会長)**

- ・大谷での文化・芸術活動は、大谷資料館の地下空間で音楽をやったり、展覧会など色々なことやっていたので、そういうところで引き続きやってもらいたい。
- ・鈴木副会長には、宇都宮観光コンベンション協会が一般社団法人になって、今までと変わった。特にDMO目指してという枠組みがあるが、この辺りで、いわゆる観光の舵取り役として中心になる中で、どういうことをやろうとしているか、MICEなど新しい展開、大谷も含めてどういう役割を目指しているかをご教示いただきたい。

**(宇都宮観光コンベンション協会 鈴木副会長)**

- ・DMOの検討というところが、私たちもまだ話をしていないが、ただ、将来的にはこのような役割を担っていくのかなと思っている。
- ・観光というものは、昼も夜も含めて、人口減少時代の中で、いかに人を呼び込むかと考えた時の、何よりも強いツールになると思っている。
- ・それをいかにオール宇都宮でやっていけるかが肝だと思っている。観光もMICEもそうだと思う。MICEについては、これからネットワークを作っていく。宇都宮観光コンベンション協会が中心となりつつも、それぞれのステークホルダーが、いかに自分事化してもらって、一緒に取り組んでいけるかが重要なところだと思っている。そういった姿勢で我々もしっかり

と事業に関わっていきたい。

**(宇都宮共和大学 古池会長)**

- ・ 一般社団法人になったということで色々変わるのだろうなと思っている。
- ・ 最後に、宇都宮観光推進委員会について、あまり知らないが、どういう組織か。

**(事務局)**

- ・ 平成29年から令和元年にかけて、JRさんのデスティネーションキャンペーンがあり、より宇都宮の観光を盛り上げていこうということで、行政はじめ交通事業者さん、宿泊施設さん、飲食などに参画してもらい、市からの交付金で様々な施策を展開している。

**(宇都宮観光コンベンション協会 鈴木副会長)**

- ・ 私どもも、宇都宮観光推進委員会の一員であり、そこに交通事業者の方や餃子会やジャズ、カクテル、タクシー、JRなども入っている。

**(宇都宮共和大学 古池会長)**

- ・ なるほど。この策定委員会は、計画を作ることが目的であるので、もう1回、最後に来年の2月頃に第3回で終わりになる。このプランの実施が、宇都宮観光コンベンション協会が中心に、皆さんが参加して進めていかれると思うが、第3次のプランの実施に向けて誰がモニタリングするのか、定期的にフォローしていくか。宇都宮観光推進委員会が中心となるのか。

**(事務局)**

- ・ 観光振興プラン、これ自体は、行政が策定主体として作らせてもらっていて、宇都宮市の観光振興の指針となるものと捉えている。宇都宮観光推進委員会は、委員として、我々も参画しているので、この観光振興プランに基づきながら事業を展開し

ていくとともに、実施の状況についても適宜見ていきたい。

**(宇都宮共和大学 古池会長)**

- ・ 分かった。やはり、計画作ったら、きちんと実行しないと。先ほどあった、絵に描いた餅ではないが、実際これが、宇都宮の観光振興にどれほど役に立っているかというところをモニターしていかないと思う。